

2016年3月2日

## ACT Japan 2015 年度・年次ミーティング プログラム（最終）

2015 年度年次ミーティング開催責任者

高橋 稔 (ACT Japan 理事長/目白大学)

### 【テーマ】「機能的な心理面接を目指して」

ACTは「アクセプタンス」、「心理的非柔軟性」、「創造的絶望」、「価値」などの考え方をマイルストーンにした新たな心理療法の展開の形です。そして、そのベースには応用行動分析の哲学や考え方が根付いていることは言うまでもありません。そこで今年度のワークショップでは「機能分析」をテーマとして取り上げました。またシンポジウムでは、行動活性化療法の専門家を招き臨床行動分析の進むべき方向性を探り、般化にも関連するテーマとして「面接室と日常生活をつなぐ工夫」について取り上げていこうと考えております。また参加者の皆さんとともに、さまざまな観点で議論を深めていただきたいと思います。積極的なご参加、お待ちしております。

### 【日程】

2016年 3月19日（土）

- (12:30～ 受付)
- 12:55～ 開会および連絡
- 13:00～14:15 ワークショップ 機能分析 講師 谷晋二
- 14:25～15:45 事例発表（40分程度×2題）
- 15:55～17:25 シンポジウム 臨床行動分析の実践から学ぶ  
：臨床場面での「機能的・文脈的」な視点
- 17:45～ 懇親会（目白大学7号館地下ボローニャ2）

3月20日（日）

- 10:00～11:20 事例発表（40分程度×2題）
- 11:30～12:00 総会
- 12:00～13:30 休憩
- 13:30～14:50 事例発表（40分程度×2題）
- 15:00～16:30 シンポジウム 面接室と日常生活を繋げる工夫

## 【場所】

目白大学 (新宿キャンパス) 7号館地下1階 07A00教室 (教室変更しました)  
東京都新宿区中落合 4-31-1 (HP [http://www.mejiro.ac.jp/map/access\\_s.html](http://www.mejiro.ac.jp/map/access_s.html))  
最寄駅 西武新宿線・都営地下鉄大江戸線「中井」駅より 徒歩 8分  
都営地下鉄大江戸線「落合南長崎」駅より 徒歩 10分  
東京メトロ東西線「落合」駅より 徒歩 12分

【参加条件】 心理・医療関連領域の専門職および大学院生（2016年度入学予定者も可）に限ります。

※ 今回のミーティングでは事例発表があります。守秘義務のある資格（臨床心理士、医師等）を持たない方には、個人情報保護誓約書を当日受付で記入していただきます。

## 【参加費】

一般 会員 = 4,000 円 大学院生（会員非会員を問わず）= 2,000 円、  
一般非会員 = 6,000 円  
懇親会費は 4,000 円（予定）です。  
※いずれも、当日受付にてお納めください。

## 【参加申し込みの方法】

- 参加は**すべて事前の申し込み**が必要です。
- ~~2月29日（月）~~3月10日（木）までに必ずお申し込みください。（延期しました）
- 参加申し込みはメールにてお願いします。  
宛先 「00act.tokyo@gmail.com」（“@”は半角です。）  
標題 ACT Japan2015年度年次ミーティング参加希望  
内容 ①氏名  
②所属（学生であれば「大学院生」と書いてください）  
③会員/非会員/入会申し込み中  
④連絡先住所および電話番号、メールアドレス  
⑤懇親会参加希望の有無

について、記載ください。

## 【プログラムの概要】

**1日目 3月19日（土） 12:30～ 受付**

**13:00～14:15 ワークショップ「機能分析の基礎とACTの中での活用」**

講師：谷 晋二先生（立命館大学）

機能分析は応用行動分析学の基本的な考え方であり、介入方針の立て方や効果検証を含め心理臨床では有効な内容です。当然、ACTにとどまらず、認知行動療法のケースフォーミュレーションの中でも強調されています。しかし、意外にも心理臨床家を対象とした専門的な学習機会は少ないものです。

そこで、今回は応用行動分析の第一人者でありながら、ACTについても早くから関心を持ち、本邦でもけん引いただいている谷晋二先生に、機能分析の基礎とACTの中での応用のポイントを解説いただけるよう、講師をお願いいたしました。

#### 14：25～15：45 事例発表 40分×2事例

- 1) 山村 祐子（嶺南こころの病院 生活支援部 リハビリテーション課）  
パワーハラスメント体験による影響が強く、再発を繰り返していたうつ病患者へのアクセプタンス&コミットメント・セラピー（ACT）
- 2) 西岡 真広（名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学、緩和ケア部）  
進行食道癌患者に対するACT エクササイズをどう工夫する？

#### 15：55～17：25 シンポジウム 1

##### 「臨床行動分析の実践から学ぶ：臨床場面での『機能的・文脈的』な視点」

ACTや行動活性化といった行動分析学に基づく臨床は「臨床行動分析」というグループとして括することができます。臨床行動分析的におこなわれた3つの事例をもとに、行動分析学とACTの繋がりについて考え、ACTの実践家が広く臨床行動分析全体を学ぶことの意義を探ります。

司会・企画	三田村 仰（関西福祉科学大学）
話題提供	瀬口 篤史（西知多こころのクリニック，医療法人桜桂会 犬山病院） 柳澤 博紀（医療法人桜桂会 犬山病院） 三田村 仰（関西福祉科学大学）
指定討論	武藤 崇（同志社大学）

#### 2日目 3月20日（日）

#### 10：00～11：20 事例発表 40分×2事例

- 1) 岡本 利子（嶺南こころの病院 生活支援部 リハビリテーション課）  
脱フュージョンが困難な青年期社会不安障害へのACT
- 2) 富田 望<sup>1)2)</sup>，本田 暉<sup>1)</sup>，岩田彩香<sup>1)</sup>，熊野宏昭<sup>2)3)</sup>  
(<sup>1)</sup>早稲田大学大学院人間科学研究科 <sup>2)</sup>綾瀬駅前診療所 <sup>3)</sup>早稲田大学人間科学学術院)  
嘔吐恐怖症を併発した広場恐怖症患者へのアクセプタンス&コミットメント・セラピー（ACT）

#### 11：30～12：00 総会

本会の運営を決定する重要な会議です。ACT Japan 会員の方はご出席ください。

#### 12：00～13：30 休憩

**13：30～14：50 事例発表 40分×2事例**

1) 芻田 文記 ((株) スタートライン)

統合失調症を有する障がい者の職場における継続的な ACT の実践による効果について

2) 岩田 彩香<sup>1)</sup>・杉山 風輝子<sup>1)</sup>・富田 望<sup>1)2)</sup>・熊野 宏昭<sup>2)3)</sup>

(<sup>1)</sup>早稲田大学大学院人間科学研究科 (<sup>2)</sup>綾瀬駅前診療所 (<sup>3)</sup>早稲田大学人間科学学術院)

注意欠如・多動症を併発した社交不安症患者へのアクセプタンス&コミットメント・セラピー (ACT)

**15：00～16：30 シンポジウム「面接室と日常生活をつなげる工夫」**

面接室で十分話し合ったことであっても実際の生活で活かされず、様々なホームワークをお願いしたり、十分日常生活の話を聞いて理解したつもりであっても、表現力の問題や記憶によってバイアスがかかってしまい、どうしたら日常生活に即した状態を査定できるのか、と考えたことはあるのではないのでしょうか。こうした臨床場面の課題は、古くから般化や維持の問題の中で様々な工夫がされてきました。このシンポジウムは夏期に開催したサマーカンファレンスでの発表を基に、企画いたしました。話題提供者には、それぞれの成果や工夫について具体的に紹介してもらいたいと思います。

司会・企画 高橋 稔 (目白大学)

話題提供 酒井 美枝 (同志社大学)

嶋 大樹 (早稲田大学大学院 人間科学研究科)

齋藤 順一 (早稲田大学大学院 人間科学研究科)

指定討論 近藤 真前 (名古屋市立大学)

※会の運営に当たっては極力準備作業の軽減を図っております。予めご了承ください。

